

トマト夏秋栽培用品種の特性

～高糖度で裂果の少ない品種を選定～

1. はじめに

県内の準高冷地では、簡易な雨よけ施設での夏秋トマト産地が形成され、高糖度トマトのブランド産地作りに取り組んでいる。しかし、完熟果生産に伴う裂果の多発が問題となっているので、夏秋栽培での高糖度トマト生産に適した高糖度で裂果の少ない品種の選定を行った。

2. 材料および方法

試験には、‘桃太郎サニー’（タキイ種苗）、‘みそら64’（みかど協和）、‘麗夏’（サカタのタネ）、‘CF桃太郎ヨーク’（タキイ種苗）を供試し、‘りんか409’（サカタのタネ）を対照とした。栽培は、現地露地ほ場および場内温室で行い、収量、果実糖度、裂果発生割合について調査した。

1) 現地試験

試験は準高冷地の有田川町生石地区（標高約700m）で行った。各品種ともに台木‘助人’（カネコ種苗）に接ぎ木育苗後、2012年5月29日に定植し、現地慣行に準じて栽培した。収穫期間は7月24日～11月29日とした。

表1 トマト品種の収量および果実品質(有田川町生石地区)

品種	収量 (kg/株)	果数 (個/株)	果重 (g/個)	糖度 Brix(%)	裂果率 (%)
桃太郎サニー	4.35	29	146	6.3	4.0
みそら64	4.45	30	149	6.3	2.8
麗夏	4.59	31	149	5.9	3.3
CF桃太郎ヨーク	3.85	26	147	6.2	5.9
りんか409(対照)	4.39	30	145	6.1	9.0

注) 収穫期間: 2012年7月24日～11月29日

試験地: 有田川町生石地区内ほ場、栽培様式: 簡易雨よけ施設、土耕栽培
畝幅: 160cm、株間: 40cm、2条植え

表2 トマト品種の収量および果実品質(農試)

品種	収量 (kg/株)	果数 (個/株)	果重 (g/個)	糖度 Brix(%)	裂果率 (%)
桃太郎サニー	1.18	7.3	162	5.7	11.6
みそら64	1.27	6.6	192	5.0	11.2
麗夏	1.33	7.2	186	5.3	9.6
CF桃太郎ヨーク	1.35	7.3	184	4.9	13.7
りんか409(対照)	1.36	7.8	175	4.9	23.0

注) 収穫期間: 2012年10月18日～11月30日、試験地: 農試場内温室

作型: 抑制作型、栽培様式: 養液土耕栽培、畝間150cm、株間20cm、
1条振り分け誘引

2) 場内試験

試験は、実生苗を育成し、場内温室の隔離ベッドに2012年8月28日に定植、養液土耕栽培とした。収穫期間は10月18日～11月30日とした。

3. 結果

1) 現地試験

供試した4品種は、対照の‘りんか409’と比べて、収量および果数では‘CF桃太郎ヨーク’がやや少なく、平均果重は同程度、果実糖度は‘麗夏’が低い傾向であった。裂果率は‘りんか409’が最も高く、‘CF桃太郎ヨーク’、‘桃太郎サニー’、‘麗夏’、‘みそら64’の順に低くなった(表1)。

2) 場内試験

収量は、‘CF桃太郎ヨーク’と‘麗夏’が対照の‘りんか409’と同等で、‘桃太郎サニー’がやや少なかった。平均果重は、‘りんか409’と比べて‘みそら64’が大きく、‘桃太郎サニー’が小さかった。果実糖度は供試した4品種全て‘りんか409’と同等以上で、‘桃太郎サニー’が最も高かった。裂果率は‘りんか409’が最も高く、次に‘CF桃太郎ヨーク’であった。

また、麗夏は乱形果の発生が多かった(表2)。

4. おわりに

今回の品種比較試験から準高冷地における夏秋栽培の高糖度トマト生産に適した品種として、果実糖度が高く、裂果が少なく、現地試験での収量性に優れた‘みそら64’と‘桃太郎サニー’が有望と考えられた。

(栽培部 東 卓弥)